

平成19年度病害虫発生予報第10号

長崎県病害虫防除所長

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

【予報の概要】

農作物名	病害虫名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
きゅうり	べと病	並	並
	うどんこ病	並	並
	褐斑病	やや多	やや多
	菌核病	やや少	並
	灰色かび病	やや少	並
	ミナミキイロアザミウマ	並	並
	コナジラミ類	多	多
トマト	黄化葉巻病	やや多	やや多
	灰色かび病	やや少	並
	コナジラミ類	多	多
たまねぎ	白色疫病	並	並
	ネギアザミウマ	多	多
いちご (本圃)	うどんこ病	並	並
	灰色かび病	並	並
	アブラムシ類	並	並
	ハダニ類	並	並

【発生予報】 本文の()内は平年値

きゅうり

1. べと病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は3.3%(4.4%)、発生圃場率33.3%(44.3%)であった。

2. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は3.0%(3.5%)、発生圃場率41.7%(35.3%)であった。

3. 褐斑病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は4.5%(1.3%)、発生圃場率25.0%(23.8%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発生が多くなってからの防除は困難なので、早期防除に努める。

- イ 薬剤は葉裏までかかるように十分散布する。
- ウ 薬剤防除の際は系統の異なる薬剤をローテーション散布する。

4. 菌核病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 1月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病果率は0.1%(0.1%)、発生圃場率8.3%(6.3%)であった。

イ 向こう1か月の気温、降水量ともに平年より高い見込みであり、本病の発生に好適である。

5. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 1月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病果率0.1%、発生圃場率7.1%)。

イ 向こう1か月の気温、降水量ともに平年より高い見込みであり、本病の発生に好適である。

6. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生葉率は0.3%(0.3%)、発生圃場率は16.7%(13.6%)であった。

7. コナジラミ類

(1) 予報内容

発生程度 多

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生葉率は2.3%(0.6%)、発生圃場率は50.0%(14.9%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア タバココナジラミはウリ類黄化症の発生への関与が明らかになっているほか、密度が高くなるとすす病の原因となるので、発生初期に防除する。

イ タバココナジラミは強い薬剤抵抗性を持つので、薬剤の選定にあたっては十分留意する。

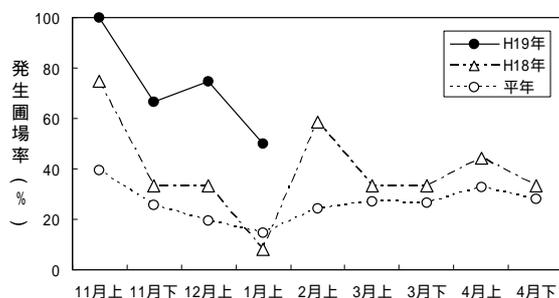


図 きゅうり コナジラミ類 発生圃場率の推移

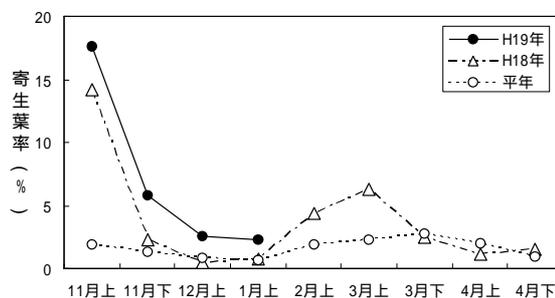


図 きゅうり コナジラミ類 寄生葉率の推移

トマト

1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病株率は1.6%(前年0.0%)、発生圃場率は41.7%(前年16.7%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

コナジラミの防除を徹底し、密度を限りなくゼロにする。また、発病株の抜き取りおよび適正処分を徹底する。

2. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 1月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病果率0.0%、発生圃場率3.0%)。

イ 向こう1か月の気温、降水量ともに平年より高い見込みであり、本病の発生に好適である。

3. コナジラミ類

(1) 予報内容

発生程度 多

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生株率は2.3%(0.7%)、発生圃場率は41.7%(14.6%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア タバココナジラミはトマト黄化葉巻ウイルスを媒介するので、黄色粘着板等で発生状況を把握し、防除に努める。また、本虫の密度が高くなると着色異常症やすす病の原因となるので、発生初期に防除する。

イ タバココナジラミは強い薬剤抵抗性を持つので、薬剤の選定にあたっては十分留意する。

ウ 訪花昆虫(ハチ)を利用するハウスでは、防除薬剤の選択に注意し、影響の少ない薬剤を使用する。

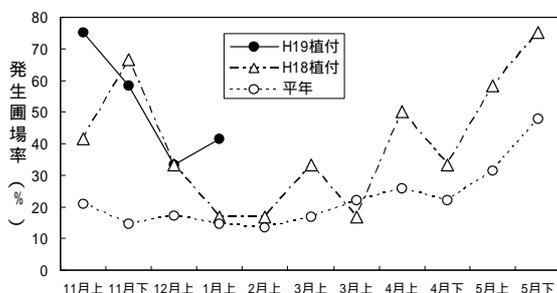


図 トマト コナジラミ類発生圃場率の推移

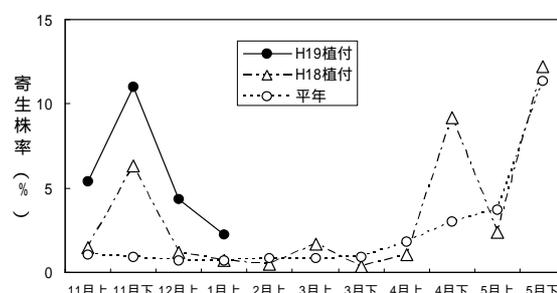


図 トマト コナジラミ類寄生株率の推移

たまねぎ

1. 白色疫病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(15筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率0.0%、発生圃場率0.9%)。

2. ネギアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 多

(2) 予報の根拠

- 1月上旬の巡回調査(15筆)の結果、寄生株率は25.3%(9.7%)、発生圃場率100%(40.0%)であった。
- (3) 防除上注意すべき事項
薬剤がかかりにくい葉と葉の隙間に寄生しているため、薬剤は丁寧に散布する。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(27筆)の結果、葉では発病株率は0.9%(0.4%)、発生圃場率7.4%(12.2%)、果実では発病果率0.2%(0.1%)、発生圃場率3.7%(7.2%)であった。

2. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発病果率は0.1%(0.0%)、発生圃場率は11.1%(5.5%)であった。

3. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は2.0%(1.0%)、発生圃場率は18.5%(13.2%)であった。

4. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

1月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は3.3%(3.6%)、発生圃場率は44.4%(24.3%)であった。

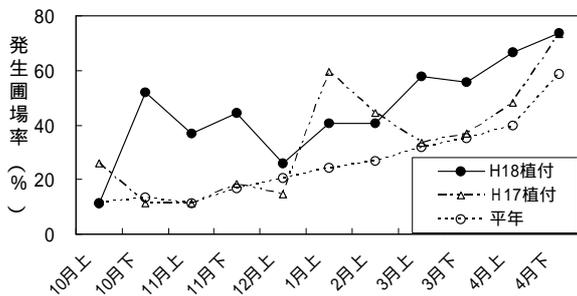


図 いちごハダニ類 発生圃場率の推移

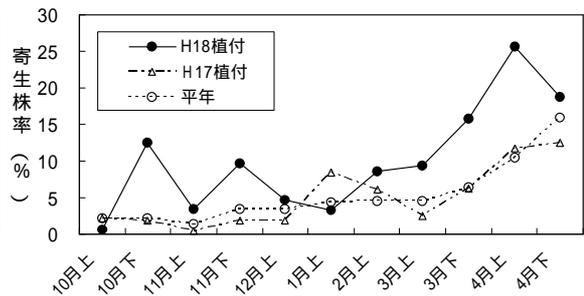


図 いちごハダニ類 寄生株率の推移

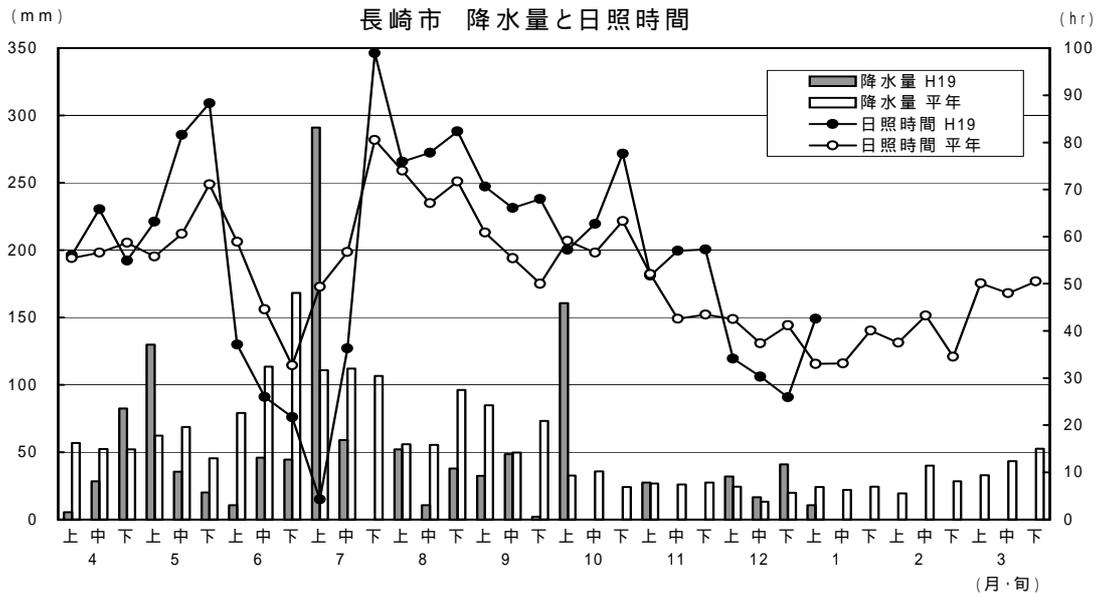
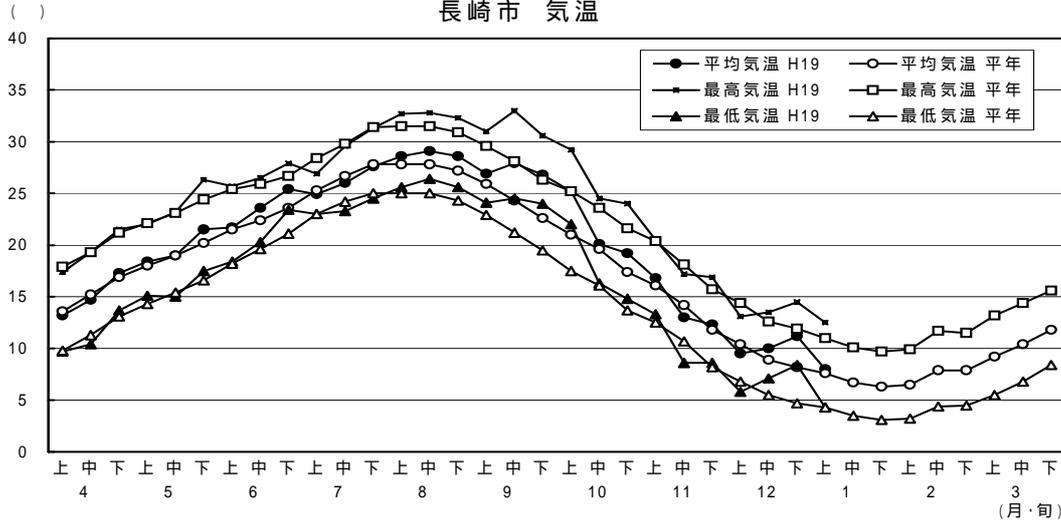
【参考】
気象

(平成20年1月1日発表 1か月予報 福岡管区気象台)
要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	30	30	40
降水量	30	30	40
日照時間	40	30	30

予報対象地域：九州北部地域

平成19年度の気象経過
長崎市 気温



「農薬使用基準の遵守について」

農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルをよく読み、使用基準（適用作物、適用病害虫、使用濃度、使用量、使用時期、総使用回数）及び使用上の注意事項を守って、適正に使いましょう。

文中の市町村名は合併前で表記しています。

病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

「防除所ホームページ」を利用して、ながさき農林業総合情報システム（一部会員制アドレス：<http://www.n-nourin.jp/>）やその他の情報を閲覧することができます。

この情報に関するお問い合わせは、電話またはEメールでお願いします。

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027， Eメール：kngs0301@sp.jppn.ne.jp